

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100057	事業の開始年月日	平成18年8月1日	
		指定年月日	平成18年8月1日	
法人名	株式会社ヘルシーサービス			
事業所名	ガーデンコート川崎			
所在地	(212-0053) 神奈川県川崎市幸区下平間357-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事務所と現場の連携がしっかりとれ、現場職員が安心してお客様と過ごせる環境にしたいと常日頃思っており取り組んでいる。お客様一人ひとりの思いを大切に、お客様主観の支援をしていくように啓蒙している。少しずつではあるが外出支援は多く取り込めてきている。お客様の身体面の支援はもちろんだが、精神面のサポートに力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年11月30日	評価機関 評価決定日	平成26年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇充実した医療体制

24時間医療連携体制がある。協力内科医が2つのフロアに交互に隔週往診しており、従って毎週医師が事業所に訪れていて、利用者の状況が変化した場合の早い対応が可能である。歯科医師は希望者に対して隔週に往診している。

◇利用者に寄り添う職員の意識と介護

管理者の丁寧な指導の結果、職員が介護の意義を利用者の立場に立って理解し、パターン化した行動ではなく状況に合わせて臨機応変に対応すべく意識し行動している。

◇緻密な介護サイクル

介護計画に基づく援助内容と実施結果を詳細に記録し、ケアカンファレンスで、評価の確認方法、介護実施状況、本人や家族の満足度、目標の達成度、今後の方針について吟味し、次の方針決めている。

【事業所が工夫している点】

◇リビングの出入り口、廊下の両サイドの床面に緑色の区画線を設けて、視覚的に注意を喚起している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだまだ全ての職員が把握し実践できているとはいえない。その為、会議や個人面談などで意思疎通を図っている。	・本年10月、全職員が参加して新たな理念「施設全体が輪(和)になり、皆が楽しく・安心して過ごせる環境を目指そう!」を作成した。 ・フロアに掲示し、理念に沿って行動していることを確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域交流の頻度は少ない状態であり、今後の課題でもある。職員の意識は少しずつできてはいる。	・自治会に加入し、地域行事の夏祭りなどに職員と一緒に参加している。 ・ボランティア(傾聴、演奏など)を受け入れており、利用者は地域の一員として生活を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの関係も以前よりは良くなっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最低年6回の開催を実施している。	・地域包括支援センター職員、家族代表、地域住民が参加して奇数月に開いている。 ・事業所の近況を説明後、昨年来の課題である地域との交流方法、災害時の地域との相互援助体制などについて意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問や電話でのやり取りにて相談及び助言を伺ったりしている。	・諸手続きを通じて区役所の職員と密接な連携ができています。 ・介護に関する細かい相談や情報把握などは、地域包括支援センター職員との間で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	参考資料を基に職員研修やミーティングにて情報の共有を図っており、日々に状態観察にて身体や精神面の異変の確認やコミュニケーションによる情報収集は徹底していく方向である。	・法人作成の身体拘束禁止マニュアルがある。 ・職員は研修や会議で拘束禁止について話し合い、利用者を拘束していないことを確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参考資料を基に職員研修やミーティングにて情報の共有を図っており、日々に状態観察にて身体や精神面の異変の確認やコミュニケーションによる情報収集は徹底していく方向である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にての研修に参加している。 ご本人様・ご家族様等関係者の方々が少しでも不安・不満・不快な思いを抱いておりますと安心して生活できない状態だと認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様が不安なく安心してお過ごしいただけることを常に念頭において対処させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のお客様アンケートを実施し、お客様のご不満やご要望を真摯に受け止め、改善すべき点あれば速やかに改善するように心がけている。また、年6回の運営推進会議も開催し情報共有させていただいている。	・利用者との日常会話の中から意見や要望を把握し、また来訪する家族からも聴取している。 ・利用者からは食事、家族からは外出先、イベント内容、衛生面（定期的な布団干しや掃除など）に関する要望が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議及び研修の場を取り入れております。 また、3ヶ月に1回の職員面談を実施している。	・管理者は、日常の申し送りや月1回の職員会議で、職員の意見を把握している。 ・備品の補充、拡充に関するものが多い。可能な件は速やかに実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修の開催を積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	講習会や研修会には積極的に参加するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お問合せも際にご質問やご要望をお聞きし、ご返答させていただいている。ご契約前にあんしんをご提供する事が重要だと認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問合せも際にご質問やご要望をお聞きしご返答させていただいている。ご契約前に安心をご提供する事が重要だと認識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスがある中の1サービスであることはご説明させていただき、お話をお聞きしている際に他のサービスが良い場合にはご相談及びご紹介させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はだいぶ出来てきているが、まだまだ至らない点がある。改善の余地がある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まだ全ての職員が出来ているとは思えない。介護計画に変更があった際などは、その都度ご家族と連絡をとり支援内容の説明及びご家族様の意見を頂戴し、介護計画書に反映させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様全てには至っていない。ただ、まだ行けてはいないがコミュニケーションの中で懐かしがられる感は見受けられる。電話や手紙はもちろんホームへは、誰でも来訪できるようにしているため、友人の方々等気軽に来訪されている。	・友人が訪れることがあり、居室でくつろいでもらっている。 ・家族に電話をしたい利用者には、事業所の電話を使ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時や普段の生活の中でも職員は意識してきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用しなくても遊びに来ていただくようお願いさせていただいている。また、その後もご相談事で電話や来訪されるケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人台帳にはアセスメントやケアプラン等がファイリングしており、職員には必ず目を通して意識して業務を行なうように啓蒙している。職員本位ではなくお客様本位の支援を心がけるように啓蒙している。	・日常の会話を通じて利用者の希望を把握し、表出困難な利用者の場合は表情や仕草などから思いを把握している。 ・家族からの情報もあり、個人記録に記載して職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントを元に、日々のコミュニケーションの中で頂く情報を職員内にて情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は意識しているが、精神的な支援の意識がまだ至らない点はある。業務日誌や個人日誌を活用しているとともに、日々の朝礼での申し送りや会議の議題にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング及びサービス担当者会議及び職員会議にて実施している。	・事前に医師の指示、家族や本人の意見を把握し、個人記録、モニタリング結果をもとにケアカンファレンスで介護計画の妥当性を検討し、次の計画に反映している。項目により3か月、6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を保管し日々の日誌を随時ファイリングしており、台帳を基に日々の朝礼や会議にて検討している。また、見直しが必要な際は介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様本位の支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限りある資源を把握し、アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様が安心してお過ごしいただけるようお客様本位の支援を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関を設けているので、何か不安な検討があれば相談したり受診する体制はある。	・眼科、整形外科に通院している利用者がいるが、申し出があれば職員が通院支援をしている。 ・内科医(全員対象)、歯科医(希望者)の往診がそれぞれ隔週にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への相談はあり連携は取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に病院へ足を運び、ご本人様の状態を確認し、退院後にお客様がご安心して支援を受けられるように心がけ、関係医療機関とは情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には書面を用いてご説明をしている。また、予測される際にはご家族様と主治医とカンファレンスを実施し方針を共有できる体制をとっている。その内容は現場職員にも情報を提供している。	・法人作成の「重度化した場合における指針」があり、入所時に家族、本人に説明し同意を得ている。 ・最近数年間は看取り例がないが、重度化した場合は、医師、家族と密接に連携して対応する体制ができている。	・重度化した場合の具体的な対応方法、精神面の心構えについて、医療関係者や看取り経験者による職員研修を行うことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいている。マニュアルは各フロアに設置されておりすぐに閲覧可能となっている。なお、緊急連絡先も添付しておりマニュアルにそった対応ができるよう会議等で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議にて防災説明を行い消火器の位置、避難経路の確認。災害時の動きなどの説明を行っている。最低年2回の消防・防災訓練を消防署に依頼し実施している。協力体制は運営推進会議等にて仰いでいる。	・3月(夜間想定)、10月に利用者が参加して避難訓練を行い、搬送方法、避難経路の確認をし、消防署の指導を受けている。 ・食料の備蓄はない。	・水、携帯食料を3日分と防寒具を常備し、品目リストを作成して管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
い						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体が個人情報保護の契約書を交わしている。お客様の立場にたち、声かけはゆったり優しい口調で話しかけ明るく話しかけるよう心掛けている。が、まだ、状況において至らない声かけをしている職員もいる為、その都度指導している。	・職員採用時に個人情報同意書で説明し、職員は利用者の尊厳確保について周知している。 ・職員は利用者の意見に共感し、不安をあたえないようにしている。自己決定しやすい声かけを穏やかな口調で、さりげなく行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様の以降にできる限り沿った支援を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の導線を意識しすぎる職員がまだいるのが現状であり、朝礼や会議・研修にて指導している。お客様の意思を優先しての支援を心がけるようには意識し取り組んではいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の思考に沿うよう、お客様本位の支援を心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まだまだ至っておりません。職員会議や研修を活かして積極的に取り入れるようにしていく。	・栄養士が献立を作成し、職員が調理して、利用者と一緒に食べ「食べっぷり」や残量で一人ひとりの好みや嚥下能力を把握し、支援している。 ・利用者は食材の皮むき、盛り付けなど調理に参加し、また、外食を楽しむこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供については食材会社と提携しており、メニューも栄養士の作成したものになっている。お客様の残存機能を活かしながらの支援を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施しております。実施した際には個人記録にも記載している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録を確認しながら定期的なトイレ誘導や声かけを実施している。可能な限りは自然排泄の気持ちをもって取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は「排泄0運動」を学び、トイレ排泄を利用者に習慣づけ、オムツ外しに取り組んでいる。 ・職員は利用者をよく観察し、しぐさを見落とさずに排泄につなげている。日中、オムツから布パンツに改善した利用者がいる。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日常生活動作や飲食物にも変化をもたらしながら対処させていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状はまだまだ至らない点もあり、今後はよりお客様のご要望にそう対処を実施していきます。業務の導線が優先しがちになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は週2～3回、午後、入浴している。職員は利用者の希望があれば、いつでも入浴できるようにしている。 ・職員は利用者一人ひとりの湯加減に配慮し、話をしながらのんびりと入浴するように心掛けている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員にはお客様の個人台帳を良く把握しお客様の心身・身体の状態を認識し、必要に応じて声かけをするように指導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医療や看護師からの情報を現場職員にも情報提供している。また、研修の議題にし学ぶ環境にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員にはお客様の個人台帳を良く把握しお客様の心身・身体の状態を認識し、必要に応じて声かけをするように指導している。また、お客様が安心してお過ごしいただけるように日々の朝礼や会議でも啓蒙している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全てのお客様が実施できているとは思えないが、ご家族様との外出や外泊をなされているお客様もいる。	・利用者の希望に寄り添い、近所のスーパーに生花やお菓子を一緒に買いに出かけている。 ・全利用者がファーストフード店や映画館に年1回、桜とバラのお花見に年2回、天気の良い日は公園に車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお預かりはしている。自動販売機にて飲料水を購入したり、近隣へお買い物に行くようには努めているが、もっと機会を増やしていきたいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご要望があれば支援させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	充分に意識し、出来る限りの配慮をさせていただいているが、まだまだ至らない点もあるかとは思っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有空間は陽光が差し込み、広々として明るく、清掃が行き届いている。 ・壁にはクリスマスケーキのぬり絵、雪だるまの工作、バラ園やぬか漬けをしてる様子の写真などを掲示し、季節感や生活感を出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時折テーブルの位置を変えたり、ソファにてお過ごしいただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に、馴染みの物を使用して頂けるようにご説明し、お持ちより頂いている。ご入居後もご本人様及びご家族様とはお話をさせていただきながら模様替え等も実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・備え付けのエアコン以外は、馴染の寝具、タンス、ベッド、テレビ、仏壇などを持ち込み、居室を居心地よい環境にしている。 ・ドアに水彩画の似顔絵や名前、本人の作品を掲示し、部屋を間違えないように工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	会議等でケース検討し実施しております。		

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだまだ全ての職員が把握し実践できているとはいえない。その為、会議や個人面談にて意思疎通を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域交流の頻度は少ない状態であり、今後の課題でもある。職員の意識は少しずつできてはいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの関係も以前よりは良くなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最低年6回の開催を実施している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問や電話でのやり取りにて相談及び助言を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	参考資料を基に職員研修やミーティングにて情報の共有を図っており、日々に状態観察にて身体や精神面の異変の確認やコミュニケーションによる情報収集は徹底していく方向である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参考資料を基に職員研修やミーティングにて情報の共有を図っており、日々に状態観察にて身体や精神面の異変の確認やコミュニケーションによる情報収集は徹底していく方向である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にての研修に参加している。 ご本人様・ご家族様等関係者の方々が少しでも不安・不満・不快な思いを抱いておられますと安心して生活できない状態だと認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様が不安なく安心してお過ごしいただけることを常に念頭において対処させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のお客様アンケートを実施し、お客様のご不満やご要望を真摯に受け止め、改善すべき点あれば速やかに改善するように心がけている。また、年6回の運営推進会議も開催し情報共有させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議及び研修の場を取り入れている。また、3ヶ月に1回の職員面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修の開催を積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	講習会や研修会には積極的に参加するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お問合せも際にご質問やご要望をお聞きしご返答させていただいている。ご契約前に安心をご提供する事が重要だと認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問合せも際にご質問やご要望をお聞きしご返答させていただいている。ご契約前に安心をご提供する事が重要だと認識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスがある中の1サービスであることはご説明させていただき、お話を伺っている際に他のサービスが良い場合にはご相談及びご紹介させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はだいぶ出来てきているがまだまだ至らない点がある。改善の余地がある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まだ全ての職員が出来ているとは思えない。介護計画に変更があった際などは、その都度ご家族と連絡をとり支援内容の説明及びご家族様の意見を頂戴し、介護計画書に反映させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様全てには至ってはいない。ただ、まだ行けてはいないがコミュニケーションの中で懐かしがられる感は見受けられる。電話や手紙はもちろんホームへは、誰でも来訪できるようにしているため、友人の方々等気軽に来訪されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時や普段の生活の中でも職員は意識してきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用しなくても遊びに来ていただくようお願いさせていただいている。また、その後もご相談事で電話や来訪されるケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人台帳にはアセスメントやケアプラン等がファイリングしており、職員には必ず目を通して意識して業務を行なうように啓蒙しております。職員本位ではなくお客様本位の支援を心がけるように啓蒙している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントを元に、日々のコミュニケーションの中で頂く情報を職員内にて情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は意識しているが、精神的な支援の意識がまだ至らない点はある。業務日誌や個人日誌を活用しているとともに、日々の朝礼での申し送りや会議の議題にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング及びサービス担当者会議及び職員会議にて実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を保管し日々の日誌を随時ファイリングしており、台帳を基に日々の朝礼や会議にて検討している。また、見直しが必要な際は介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様本位の支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限りある資源を把握し、アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様が安心してお過ごしただけよう、お客様本位の支援を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関を設けているので、何か不安な検討があれば相談したり受診する体制はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への相談はあり連携は取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に病院へ足を運び、ご本人様の状態を確認し、退院後にお客様がご安心して支援を受けられるように心がけ、関係医療機関とは情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には書面を用いてご説明をしている。また、予測される際にはご家族様と主治医とカンファレンスを実施し方針を共有できる体制をとっている。その内容は現場職員にも情報を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいている。マニュアルは各フロアに設置されておりすぐに閲覧可能となっている。なお、緊急連絡先も添付しておりマニュアルにそった対応ができるよう会議等で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議にて防災説明を行い消火器の位置、避難経路の確認。災害時の動きなどの説明を行っている。最低年2回の消防・防災訓練を消防署に依頼し実施している。協力体制は運営推進会議等にて仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体が個人情報保護の契約書を交わしている。お客様の立場にたち、声かけはゆったり優しい口調で話しかけ明るく話しかけるよう心掛けている。が、まだ、状況において至らない声かけをしている職員もいる為、その都度指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様の以降にできる限り沿った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の導線を意識しすぎる職員がまだいるのが現状であり、朝礼や会議・研修にて指導している。お客様の意思を優先しての支援を心がけるようには意識し取り組んではいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の思考に沿うよう、お客様本位の支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まだまだ至っていない。 職員会議や研修を活かして積極的に取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供については食材会社と提携しており、メニューも栄養士の作成したものになっている。お客様の残存機能を活かしながらの支援を心がけております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。実施した際には個人記録にも記載している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録を確認しながら定期的なトイレ誘導や声かけを実施している。可能な限りは自然排泄の気持ちをもって取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日常生活動作や飲食物にも変化をもたらしながら対処させていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状はまだまだ至らない点もあり、今後はよりお客様のご要望にそう対処を実施していく。業務の導線が優先しがちになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員にはお客様の個人台帳を良く把握しお客様の心身・身体の状態を認識し、必要に応じて声かけをするように指導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医療や看護師からの情報を現場職員にも情報提供しております。また、研修の議題にし学ぶ環境にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員にはお客様の個人台帳を良く把握しお客様の心身・身体の状態を認識し、必要に応じて声かけをするように指導している。また、お客様が安心してお過ごしいただけるように日々の朝礼や会議でも啓蒙している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全てのお客様が実施できているとは思えないが、ご家族様との外出や外泊をなされているお客様もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお預かりはしておりますが、自動販売機にて飲料水を購入したり、近隣へお買い物に行くようには努めておりますが、もっと機会を増やしていきたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご要望があれば支援させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に意識し、出来る限りの配慮をさせていただいているが、まだまだ至らない点もあるかとは思っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時折テーブルの位置を変えたり、ソファにてお過ごしいただいたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に、馴染みの物を使用して頂けるようにご説明し、お持ちより頂いている。ご入居後もご本人様及びご家族様とはお話をさせていただきながら模様替え等も実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	会議等でケース検討し実施している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム
ガーデンコート川崎

作成日 平成26年2月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	年に1～2回は提携医療機関に依頼し研修を設けていく。	提携医療機関の医師にその旨を伝え、開催回数や開催月を決める。	平成26年3月
2	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	常時、水や携帯食料を3日分と防寒具を準備する。また、品目リストも作成し的確な管理体制にする。	職員会議にて必要な携帯食料を選定する。また、選定後は速やかに購入し、品目リストも作成する。	平成26年3月
3					
4					
5					